



## 事務所だより 第5号

令和2年1月20日

益田教育事務所



## 自分で決める（その2） ～生徒指導の機能から～

所長 岡本 昌浩

新年あけまして、おめでとうございます。2020年の幕明けです。本年もどうぞよろしくお願ひします。

昨年9月から10月にかけて全校訪問した折に、「積極的な生徒指導」について意見交換をしました。すぐに解決すべき生徒指導上の問題があるなかでも、学校の実態に応じて積極的な生徒指導に取り組んでおられることがよくわかりました。同時に、積極的な生徒指導は決して子どもだけでなく、私たち大人の成長にとっても大切な機能ではないかと思ひ始めました。

『生徒指導提要』（文部科学省）では、積極的な生徒指導は「・・・児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指す・・・（下線部：岡本）」とあります。まさしく、私たち大人の生き方に通じます。いいかえれば、自己指導能力を育てることは人材育成にも通じるのではないのでしょうか。誰かを育てるのではなく、自ら育てていくことが人材育成の核にならなければいけません。

それでは、どのようにして自己指導能力を育てていけばいいのでしょうか。『生徒指導提要』では、生徒指導の3機能を以下のように整理しています。

- ①自己存在感を与えること
- ②共感的な人間関係を育成すること
- ③自己決定の場を与えること



①自己存在感とは、自尊感情のことで『自分は価値のある存在である』という実感のことです。とすれば、教職員一人ひとりについても、かけがえのない存在としてとらえ、自尊感情を高めていくことが大切です。そのためには、労いの気持ちをこめたお互いの声かけから始めるしかないと思ひます。

②共感的な人間関係とは、『互いに人間として尊重し合う関係』のことです。時に自分の弱さや課題をも受け入れてくれる温かい関係、そして時にぶつかり合ったとしてもきちんと折り合えるしなやかな関係のなかで人は育ちます。教職員同士についてもこうした共感的な人間関係があればこそ、だれもが安心して仕事に向かうことができるでしょう。

③自己決定とは、『活動の目的やその場の状況などに応じて、自分や自分たちで決めて実行する』ということです。学校では、児童生徒だけでなく教職員もその場、その時にどのような行動が適切か判断し、実行し、時に結果責任をとらないといけない状況が生まれます。ただ、こうした経験を数多く重ねることで問題を見抜く目や見通しをもった対応力が身につくように思ひます。

私は昨年度の年頭所感において、ESDの視点から「モチベーションを上げるためには、『自分で決める』という思いを持たせること」と書きました。自分で決めるためには、自己指導能力がなければいけません。これからも、互いに自己指導能力を高められる学校集団づくりを目指したいものです。

# 「意外とかんたん！」学級活動（２）と（３）の指導

津和野町教育委員会 派遣指導主事 菊池 貴宏

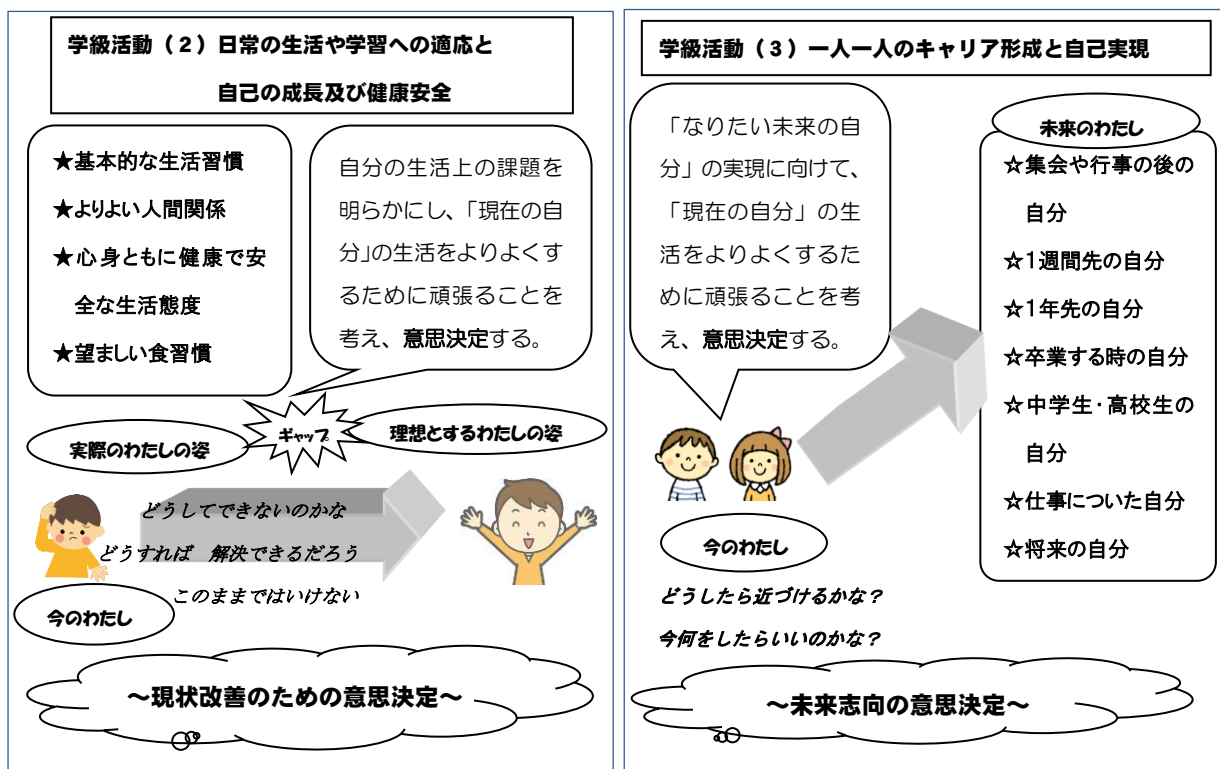
５年に一度、島根にやって来る「中国地区小学校特別活動研究大会」が、今年は津和野町で開催されました。県内外から集った２００名を超える参加者の前で、津和野の子どもたちは生き生きと自分の考えを伝え合いました。そして、それぞれの思いを大切にしながら、全員で高め合おうとする姿がありました。また、小学校６年生、中学校３年生では、学級活動（３）『一人一人のキャリア形成と自己実現』の内容を取り扱った授業も公開され、大いに注目を集めることになりました。次にこの大会が益田管内にやって来るのは２０年先になります。「その頃…、この子たちが今日思い浮かべていた『なりたい未来の自分』が、叶っているといいなあ。」と、参加者皆が心から思える、特別活動ならではの子どもたちの夢や希望、未来を語り合い、感じ合うことのできた素晴らしい研究大会でした。

そんな素敵な研究大会を終えた先生方と数年間の取組を振り返ってみました。するとこんな声を多く聞きました。

- ・「（１）は、学級経営の推進と絡み合わせながら、一つ一つ積み重ねるように実践をしていかないと子どもに力がかからないので大変だった。やっぱり子ども任せの学級会や中途半端な指導では子どもは育たない。」
- ・「（２）と（３）は、その違いや共通点がまだはっきりしにくいけど、思ったよりも授業が構想しやすく、それぞれの題材ごとに、子どもの育ちを実感しながら取り組むことができた。」

特別活動はすでに新学習指導要領が先行実施されており、色々な文献や資料が溢れ、逆に分かりにくくなっている点多々あるかと思います。そこで、今回の研究大会に関わらせていただいた経験をもとに、「意外とかんたんだった」学級活動（２）と（３）を比べ、二つの視点でまとめてみました。取っ付きにくかった学級活動も、やってみるとそう難しいものでもありません。是非チャレンジしてみてください。また、キャリア教育の要となっている特別活動を学ぶにも、まずここから整理してのぞむとよいかと思います。

## 01. 学級活動（２）と（３）はどんな思考過程をたどるの？



## Q2. 学級活動(2)、学級活動(3)のちがいと共通点はどこ？

内容	(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全	(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現
時間	15～20時間（学年でちがう）	8～10時間（学年でちがう）
アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現在の自分の生活改善に向けて努力すべきことを<b>意思決定</b>する。</li> <li>○実行することで子どもたちの<b>自己指導能力</b>を育てていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○なりたい自分に向けて、今、自分が頑張ることを<b>意思決定</b>する。</li> <li>○それに向けて努力することで、子どもたちの<b>自己指導能力</b>を育てる。</li> </ul>
共通点	<p>◆年間指導計画に基づき、教師が意図的、計画的に指導していくもので、指導過程は基本的には同じ。</p> <p>◆自己の課題に向き合った目標を立て、強い意志をもって自分が決めたことを実行して自己実現を図っていくことのできる子どもを育てる。</p>	
	<p><b>つかむ</b></p> <p><b>【資料の提示などによって、問題意識を高め、課題をつかむ段階】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個々の課題は違っていても、自分にも当てはまる共通の問題として意識化を図る。</li> <li>○問題意識を高めるための、効果的な資料（アンケート結果、実物、写真等）を活用する。</li> <li>○資料等を活用して現状についての客観的な事実を伝え、自分たちで問題に気づかせる。</li> </ul>	
	<p><b>さぐる</b></p> <p><b>【問題の原因について話し合いながら、原因を追及する段階】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○出された原因を分類・整理しながら、黒板に分かりやすくまとめていく。</li> <li>○改善の必要性を実感できるようにする。（動作化やロールプレイ等）</li> <li>○理想と現実のギャップについて分析し、目標と現状の差を問題として捉えられるようにする。</li> <li>○知識と行動の間の溝を対話を通して埋めていく。</li> </ul>	
	<p><b>見つける</b></p> <p><b>【解決方法を話し合っ考える段階】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集団思考を用いて、問題の解決方法をできるだけ多く出し合う。</li> <li>○解決策を板書し、個々の考えを全体へと広められるようにする。</li> <li>○専門的な見地からの情報提供を行う。（養護教諭、栄養教諭、司書教諭、GT等）</li> <li>○教師や友達、自己との会話を通して「少しでも前進できるようにできること」（解決策）を数多く引き出す。</li> <li>○児童の「どんなことができるだろう」という潜在的な目的意識を顕在化するような支援を行う。</li> </ul>	
	<p><b>決める</b></p> <p><b>【見つけた解決方法にそって、具体的な個人の目標を意思決定する段階】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○見つけた解決方法を参考に、自分の課題に応じた目標を意思決定する。</li> <li>○できるだけ、具体的な意思決定をする。（いつ、どのように、どのくらい）</li> <li>○決めた目標を友達と伝え合い、アドバイスをし合う。</li> <li>○「実現可能なレベルのハードル」というゴールを、複数の解決策から比較したうえで決める。</li> <li>○多くの選択肢の中から選び取るという過程をとることで、より強い意志決定に導いていく。</li> <li>○集団思考を生かし、色々な解決策の中から自分に合った目標を考えることができるようにする。</li> <li>○自分の意思決定したことを友達に宣言することで、達成意欲を高め行動の具現化を図る。</li> </ul>	
	<p><b>実行する</b></p> <p><b>【自分で決めたことを実行する段階】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で意思決定したことについて、1週間から1ヶ月程度実践を行う。</li> <li>○自分の取り組みについて振り返り、次の課題へとつなげる。</li> <li>○ゴール後の自分の姿をイメージさせることで、児童生徒の実践意欲を高める。</li> <li>○成果が出ていない場合も、プロセスの中での成長を伝えることにより自己効力感を高める。</li> </ul>	

## 小学校でのプログラミング教育が始まります

益田市教育委員会 派遣指導主事 長島 靖和

いよいよ4月から小学校でのプログラミング教育が始まります。小学校でのプログラミング教育は、子どもたちにコンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験させながら、発達の段階に即して、次のような資質・能力を育成するものです。

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気付くこと。	発達の段階に即して、「 <u>プログラミング的思考*</u> 」を育成すること。	発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること。

学習活動としてのねらいは、論理的思考力を育むとともに、プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータなどの情報技術によって支えられていることなどに気付き、身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータ等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育むことと、さらに、教科等で学ぶ知識及び技能等をより確実に身に付けさせることです。

新学習指導要領では、「総合的な学習の時間」、5年生「算数」6年生「理科」でプログラミングについての記述が見られます。5年生「算数」では、「正多角形の作図」の学習に関連して、「正確な繰り返し作業を行う必要があります、更に一部を変えることでいろいろな正多角形を同様に考えることができる場面などで取り扱うこと。」とされています。4月から使用する教科書では「プログラミングを体験しよう!」として、正多角形をかく手順を考える内容が掲載されています。

次の3つのことができるコンピュータを使って正多角形をかくにはどのような指示をすればよいでしょうか。

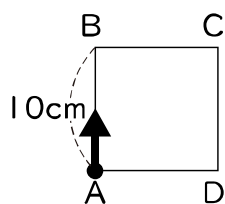
cm前に進みながら直線をかく

°右に回転する

回くり返すこと

点●が頂点Aから出発するとき、

① 1辺10cmの正四角形（正方形）



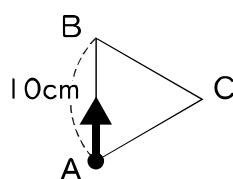
①の指示

4 回くり返すこと

10 cm前に進みながら直線をかく

90°右に回転する

② 1辺10cmの正三角形



②の指示

3 回くり返すこと

10 cm前に進みながら直線をかく

60°右に回転する

上の正三角形をかく指示では正三角形がかけません。どこがまちがっているか分かりますか？

### \* 「プログラミング的思考」

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力のこと